

**1 目標像** 点から線へ。  
海と人が主役の新たなシンボルの創出。

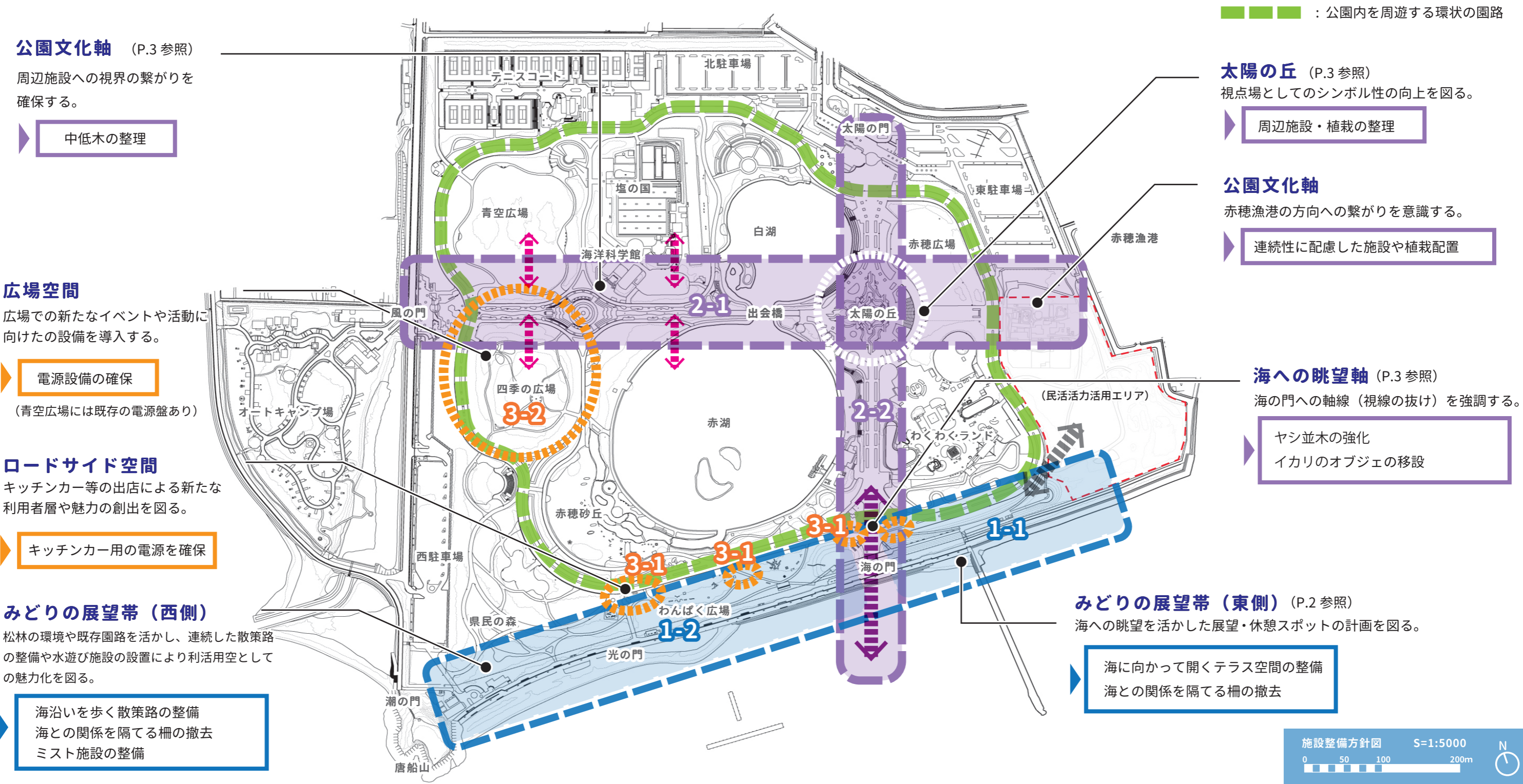
- ・現在は海との関係が希薄になっている海沿い空間を、シーサイドウォークを楽しめる「みどりの展望帯」として整備する。
- ・3世代が楽しめる多様な機能を組み込み、海に憩う風景そのものがシンボルとなることをめざす。

**2 目標像** 赤穂海浜公園の有する多様な魅力を感じられる象徴的な軸線へ。

- ・南北軸は「海への眺望軸」として、すっきりとした軸線を強調する景観へ導く。
- ・東西軸は「公園文化軸」として、多様な公園内の活動や環境が垣間見える変化が楽しい軸線を目指す。

**3 目標像** より多様な活動が行える園路沿いや広場空間へ。

- ・歩いて楽しいロードサイド空間の魅力化に向けて、キッチンカーの出店などが可能な整備を行う。
- ・広場空間の活用に向け電気設備を確保する。



**公園文化軸** (P.3 参照)

周辺施設への視界の繋がりを確保する。

中低木の整理

**広場空間**

広場での新たなイベントや活動に向けたの設備を導入する。

電源設備の確保

(青空広場には既存の電源盤あり)

**ロードサイド空間**

キッチンカー等の出店による新たな利用者層や魅力の創出を図る。

キッチンカー用の電源を確保

**みどりの展望帯 (西側)**

松林の環境や既存園路を活かし、連続した散策路の整備や水遊び施設の設置により利活用空としての魅力化を図る。

海沿いを歩く散策路の整備  
海との関係を隔てる柵の撤去  
ミスト施設の整備

：公園内を周遊する環状の園路

**太陽の丘** (P.3 参照)

視点場としてのシンボル性の向上を図る。

周辺施設・植栽の整理

**公園文化軸**

赤穂漁港の方向への繋がりを意識する。

連続性に配慮した施設や植栽配置

**海への眺望軸** (P.3 参照)

海の門への軸線(視線の抜け)を強調する。

ヤシ並木の強化  
イカリのオブジェの移設

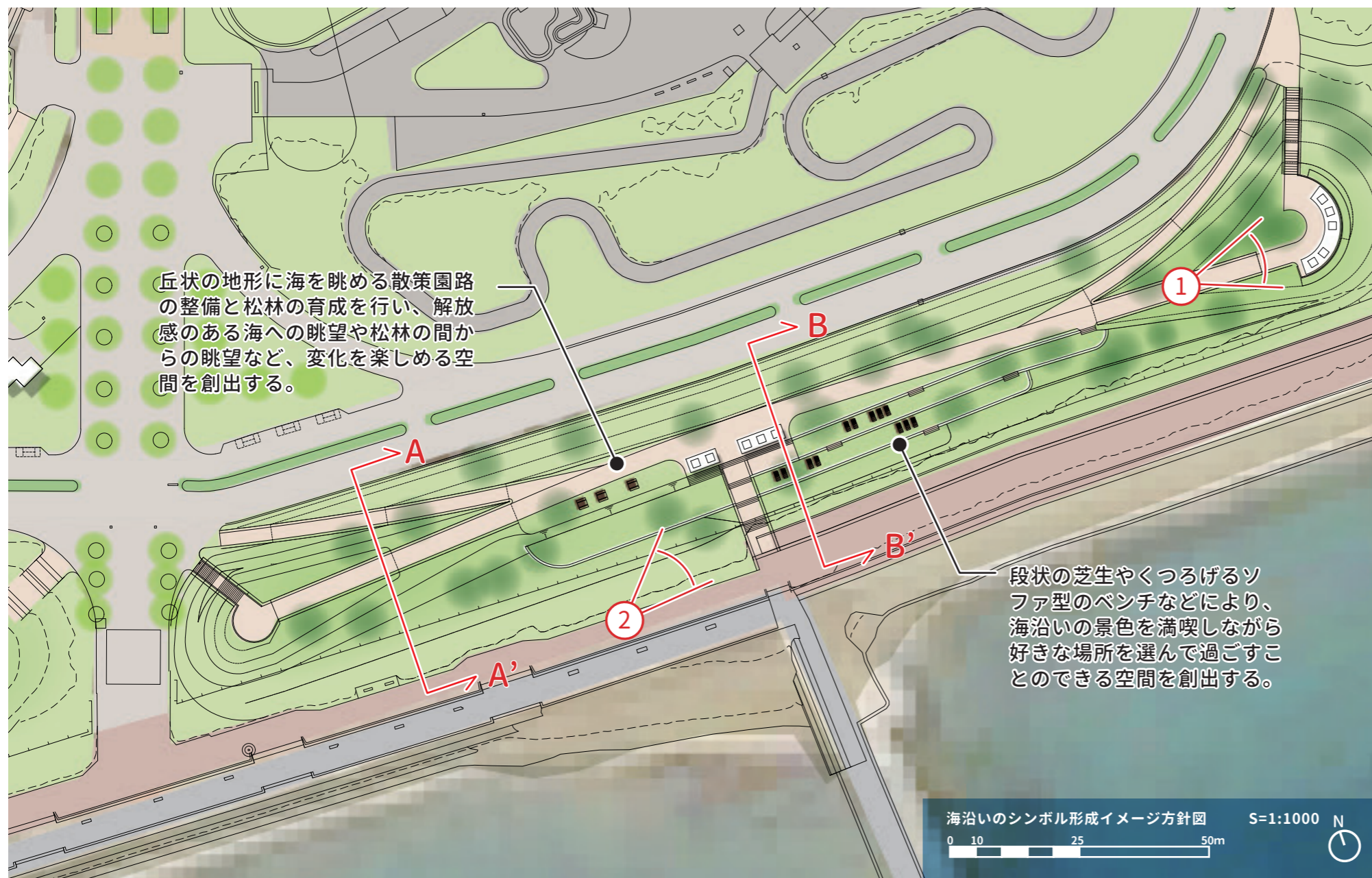
**みどりの展望帯 (東側)** (P.2 参照)

海への眺望を活かした展望・休憩スポットの計画を図る。

海に向かって開くテラス空間の整備  
海との関係を隔てる柵の撤去

1-1 みどりの展望帯 (東側)

※松林は10年後のイメージ



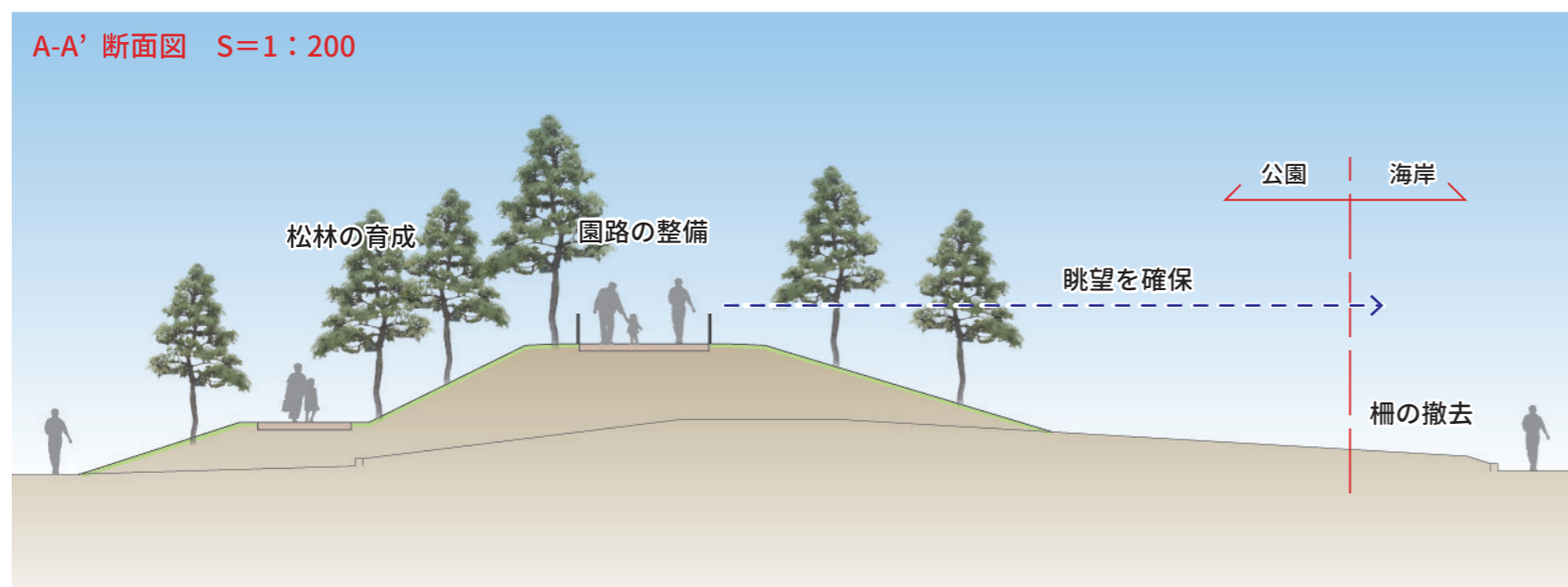
① 御崎方面まで見渡せる展望・休憩スポット



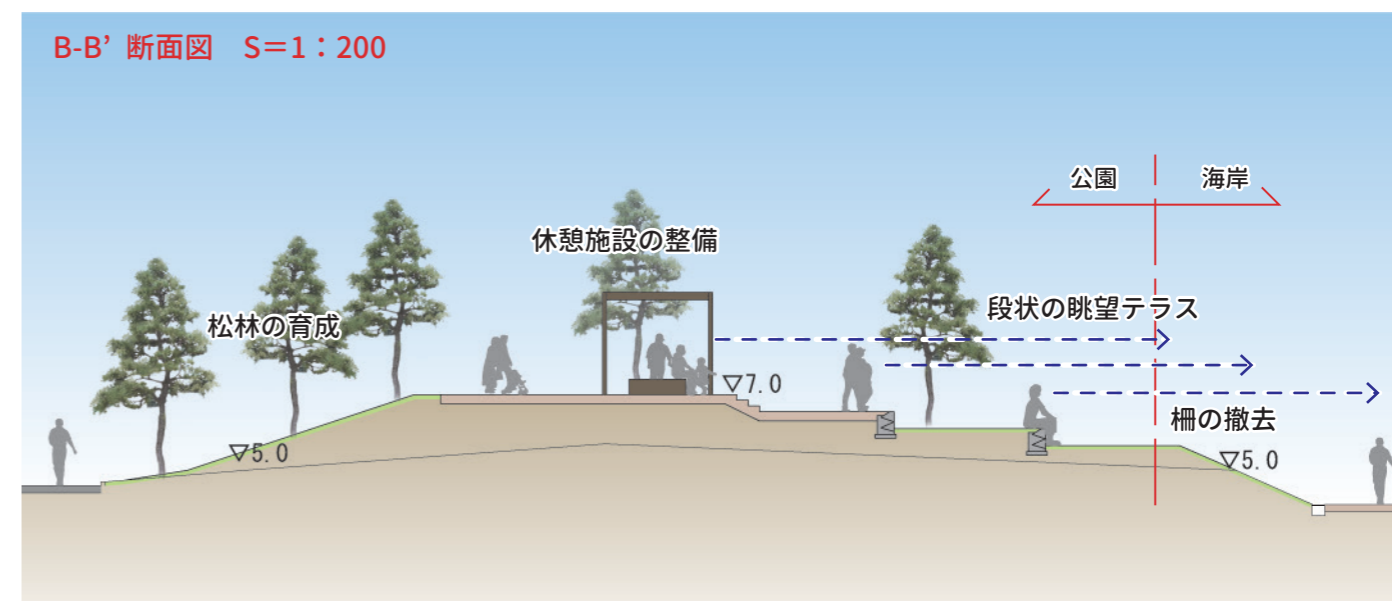
② 段状のテラスでくつろげる展望・休憩スポット



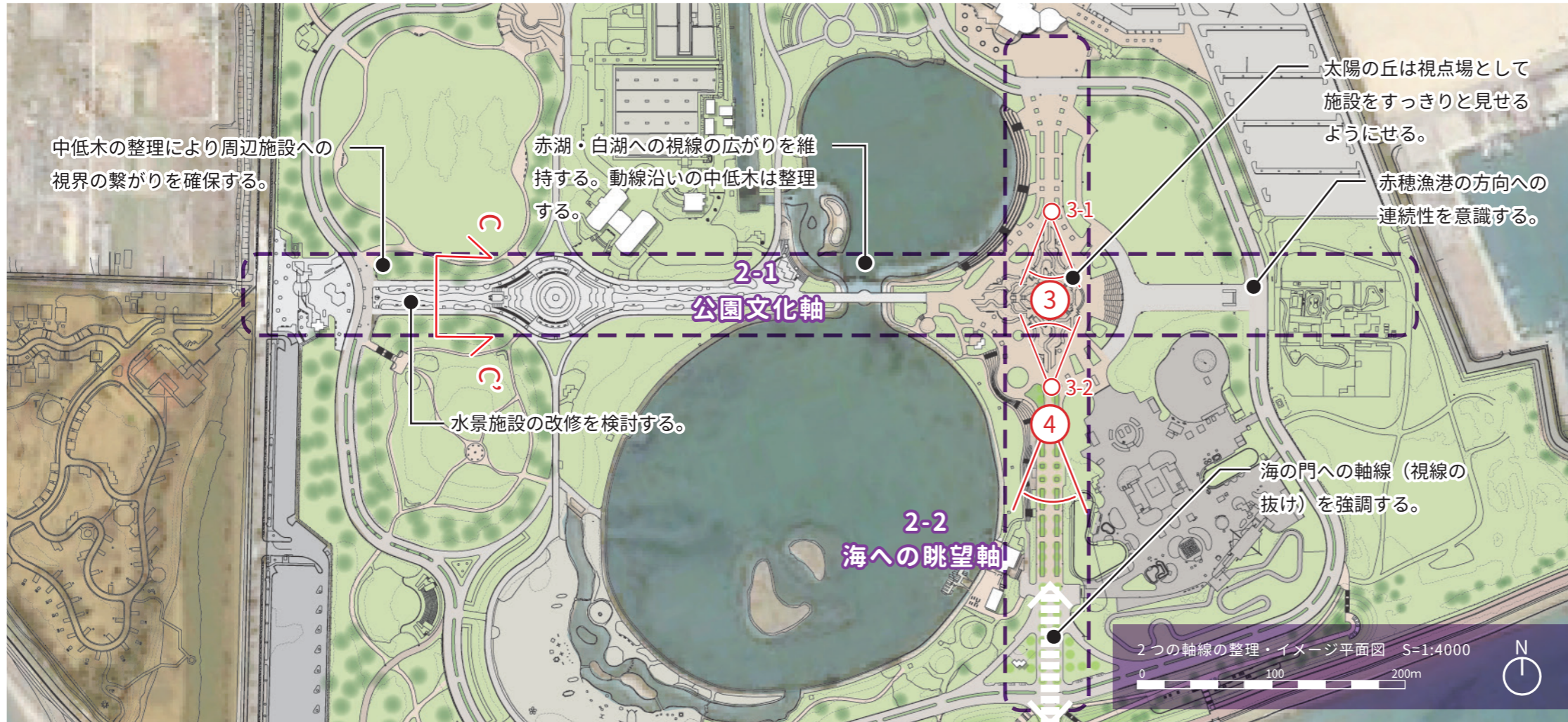
A-A' 断面図 S=1:200



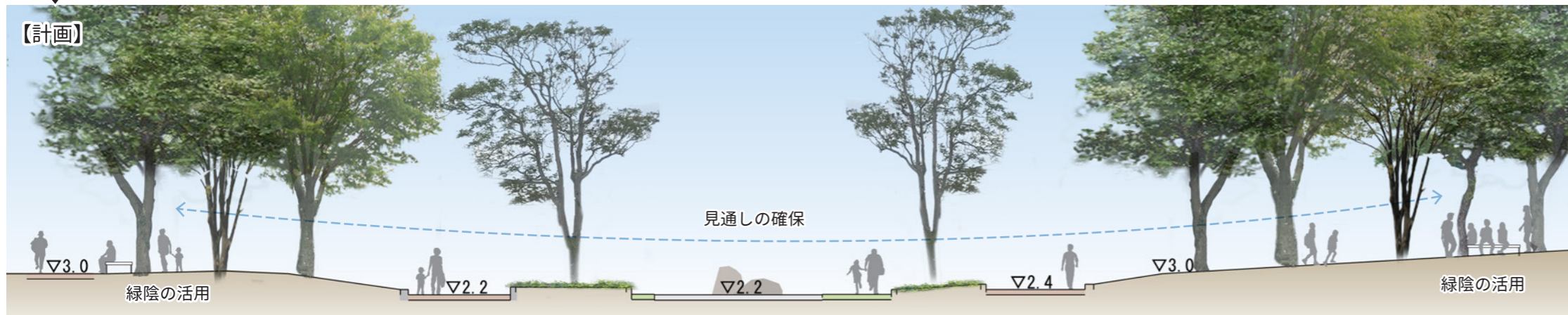
B-B' 断面図 S=1:200



1 リノベーション実施計画 -1 (施設整備による魅力化)



C-C' 断面図 S=1:200



③ 視点場としてのシンボル性の向上

現在は緑と一帯化して山のように見える太陽の丘は、中低木を整理することで石積みや階段などの構造物を際立たせ、園内を見渡せる貴重な「視点場」としての存在感を出す。

○ 3-1

【現況】



【計画】



○ 3-2

【現況】



【計画】



④ ヤシ並木による海の門への軸線を強調

南北軸はヤシ並木で軸線を強調し、海への繋がりを妨げるオブジェおよびヤシの木は撤去する。軸線上は周囲と異なる舗装とし、海との繋がりを強調する。

【現況】



【計画】

